

生涯学習関連施設 業務評価シート

地域学習センター

施設名/足立区東和地域学習センター・図書館・体育館

【評価対象年度】令和6年度 【自己評価】令和7年4月7日 【評価委員会】令和7年8月13日
【評価点】水準を大きく上回る：5点 水準を上回る：4点 水準どおり(水準クリア)：3点
水準を下回る：2点 水準を大きく下回る：1点

大項目		中項目		確認項目		
1 管理 状況	A 適切な 管理の履 行	協定や事業計画に沿って適切に管理が行われているか(評価点×2)		評価点×2		
				指定管理者	担当課	評価委員会
		1	施設運営業務等が適正に実施されている ◆計画どおりの開館、利用者対応、予約受付 など	5.0 (×2)	4.0 (×2)	22.0 (満点30点)
		2	職員の勤務状況・体制が適切である ◆適正な人員配置 など	3.0 (×2)	3.0 (×2)	
		3	人材育成の取り組み(意識、接遇の向上)	5.0 (×2)	4.0 (×2)	
		指定 管理者 記入欄	【アピールポイント】利用者の声をより多く業務に反映させるため、従来の紙ベースの「お客様の声」に加え、LINEの活用を開始した。若年層の利用者の声も含め、現在約300ユーザーの登録を確保している。 また、コミュニケーションボードを2か所設置して、利用者の声とその対策や対応について、分かりやすい形での掲示、回答に努めている。さらに、ユニバーサルデザイン資格を取得した職員を中心に接遇意識の向上を目的として、館内掲示物の変更や、情報誌を作成して、スタッフ全員の意識向上を図っている中で、掲示物が分かりやすくなったとの声をいただいた。 人材の育成では、本部のスケールメリットを生かしたオンラインでの個人情報保護研修、情報漏洩対策研修、パソコンのスキルアップ研修等のスタッフ研修を実施して人材育成及び安定的な施設管理に努めてきた。			
			【改善すべき点・課題等】人材確保について、離職者も複数人発生しており、スタッフ職員の研修方法や職場環境の改善にも努める必要があると考えている。			
		区 記入欄	【特記事項】項目1について、利用者と相互にやり取りができるコミュニケーションボードを設置し、紙とLINEどちらからでも要望・意見の投函を可能とし、要望に対する回答を掲示した。回答数はまだ13件と少ないが、取り組みを評価して水準点に1点加点する。項目3について、ユニバーサルデザインに関する資格を保有するスタッフが講師となり、他のスタッフへの育成を行った。また、研修での学びを生かし、館内の掲示物や案内表示、避難経路図をリニューアルし「分かりやすくなった」とご意見をいただくようになった。取り組みを評価し水準点に1点加点する。			
		評 価 委 員 会 記 入 欄	【評価すべき点】ユニバーサルデザインは重要であり、取り組みを評価する。また、LINEおよび館内掲示板の活用により、多くの意見収集に努めている点を評価する。 【改善すべき点】 【その他注意点】常に業務マニュアルを携行しての執務を維持してほしい。			

	施設の安全性は確保されているか	評価点			
		指定管理者	担当課	評価委員会	
B 安全性の確保	1 施設・設備の点検が計画通り行われ、不具合等に適切に対応している ◆日常点検、定期点検の実施、不具合発生時の対応 など	5.0	4.0	14.0 (満点20点)	
	2 施設・設備の経年劣化に対応している ◆設備状況の把握、改修・修繕提案 など	3.0	3.0		
	3 利用者が快適に利用できるよう、施設の管理が適切に行われている ◆日常清掃、定期清掃の実施、外溝・駐車場の管理 など	5.0	3.0		
	4 危機管理（防災・防犯・事故対応）が適切に行われている ◆防火管理者、防火管理計画、防災訓練の実施、鍵の適正管理 マニュアルの策定と周知 など	5.0	4.0		
	指定管理者記入欄 【アピールポイント】施設屋上のルーフドレンの清掃に関して、梅雨・台風等の雨天が多い時期は、泥の流入が増えるため、ルーフドレン清掃を月2回以上（仕様書では月1回）確認・清掃をした。その結果、施設内の漏水は発生しなかった。施設運営職員が巡回点検で気づいたことを一覧化し、施設保全責任者に共有を行い、不具合等の早期発見・対応をしたことで、利用者への怪我・事故・施設運営の影響は発生しなかった。全職員が利用者の目線に立ち、より安全・快適に利用できる施設設備機能付与の修繕の意見を出し合い、区へ修繕提案し、一部実施した。昨年度に引き続き、地域住民参加型避難訓練を実施した。昨年度との相違点は、起震車の体験と消防署の職員による参加者・職員への防災に関するヒヤリハット研修を実施し、防災知識の向上に繋がった。不審者対応訓練は、受付職員が事務所で業務中に、不審者が突如、危険な行動を取った場合の不審者確保の訓練を行い、職員の不審者への危機管理意識を高めることができた。				
	区記入欄 【改善すべき点・課題等】大規模修繕から5年以上経過しており、軽微な不具合が多くなってきているため、指定管理者で作成した修繕計画をもとに緊急性が高い修繕を優先的にを行い、施設運営に影響が出ないように管理していく。また、施設の利用者数の増加に伴い、施設の汚損状況が深刻になる可能性が考えられる。そのため、汚損しやすい箇所を把握し、清掃員や施設職員が重点的に清掃できる体制づくりを構築していき、利用者が増加しても清掃の質を保持し、快適な空間を利用者へ提供できるようにしていきたい。				
C 法令等の遵守（※倫理性も含む）	評価委員会記入欄 【評価すべき点】資料からは細かな日常的業務の積み重ねがなされていると見て取れる。ルーフドレンや排水溝の点検・清掃に配慮している点は評価する。 【改善すべき点】 【その他注意点】				
	個人情報保護、各種法令等は遵守されているか	評価点			
	指定管理者	担当課	評価委員	9.0 (満点15点)	
	1 個人情報保護の取り組み ◆内部規定の策定、研修の実施 など	3.0	3.0		
	2 個人情報事故への対応、適正管理 ◆個人情報に関する事故が発生しなかったか	3.0	3.0		
	3 各種法令等の遵守 ◆労働基準法、公契約条例等の関係法令は遵守されているか	3.0	3.0		
	指定管理者記入欄 【アピールポイント】社内において、定期的にパソコンを使つての情報漏洩テストや研修などを通じてスタッフに周知してきた。				
	区記入欄 【改善すべき点・課題等】受付スペースが、他の学習センターに比べ、オープンな状態（外から中が見やすい状態）のため、スタッフ同士の会話や電話対応では、特に注意をする必要がある。				
	評価委員会記入欄 【特記事項】問題なく運営できている。引き続き研修等によって個人情報保護、法令遵守に努めてほしい。				
	【評価すべき点】法令等の遵守は適切に実施されている。 【改善すべき点】 【その他注意点】				

D 適切な 財務・財 産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか		評価点		
			指定管理者	担当課	評価委員
	1	適正な財政状況及び経理処理を行っている ◆令和6年度収支（－4,426千円） ◆経理の明確な区分、経理担当者の配置、帳簿、関係書類の整備 など	2.0	2.0	1.0 (満点5点)
	指定 管理者 記入欄	【アピールポイント】昨今の物価上昇や賃金上昇及び地域固有のルールや慣例化されている事案も多く、コンソーシアム（共同事業体）運営のため、支出コントロールが大変難しい状況であり、各社人件費や資材の高騰に苦慮した。施設運営費だけをみれば、今年度は購入備品や講座実施等の経費精査と残業代を含めた人件費等見直しにより昨年度に比べて支出を圧縮したが、間接部門での支出が悪化してマイナスを改善するに至らなかった。			
	区 記入欄	【改善すべき点・課題等】コンソーシアム（共同事業体）により運営しているために、各社それぞれの間接経費や人件費算定、備品購入ルールがあるため、共通な基準をもった軽減策を取れず、容易な圧縮が難しく課題である。各社での改めでの支出の軽減と各社の調整、間接部門での経費削減に努めていきたい。施設内では慣例化されているルールはあるものの館内の運営経費においては、昨対においてマイナス額に押さえることが出来てい			
	評価 委員 記入欄	【特記事項】前年度減点であったため、サービスの維持・向上に配慮しながら収支の改善に取り組んだ。施設運営費については購入備品、事業経費、人件費等の見直しにより改善し、全体としても赤字幅を減らす努力はしたが、物価高騰等の影響が大きくマイナス収支であるため水準点より1点減点とする。令和7年度は各費目に応じた軽減対策を実施するなど、収支状況の改善を求める。			
		【評価すべき点】入出金事務は適切に実施されている。 【改善すべき点】人件費を確保してサービスを維持向上させる努力は継続してほしいが、昨年度に続き赤字状態というのは問題があり、水準点より2点減点する。収益事業その他により、改善に向けた検討を行ってほしい。 【その他注意点】			

大項目		中項目	確認項目			
2 事業 効果	A 学習事業の取り組み	仕様書や事業計画に沿った学習事業が提供されているか		評価点		
				指定管理者	担当課	評価委員
		1	利用促進に向けた取り組み（広報・PR等） ◆ホームページ、SNS、ミニコミ紙の充実、外部媒体の活用 など	3.0	3.0	18.0 (満点20点)
		2	A型事業（事本的な生涯学習事業）の企画・実施・成果 ◆A型事業の企画・実施・成果	5.0	5.0	
		3	B型事業（重点事業）の企画・実施・成果 ◆B型事業の企画・実施・成果	5.0	5.0	
		4	C型事業（拡張事業）の企画・実施・成果 ◆C型事業の企画・実施・成果	5.0	5.0	
		指定 管理者 記入欄	【アピールポイント】一般介護事業（はつらつ教室）の受け皿として、REBORNS（リボーンズ）を開催し、継続して介護予防事業を行い、仲間づくりと健康維持に寄与する講座となっている（はつらつ教室からの受講者4名）。また、独自事業として、講座参加者の声から企画をした、子どもの遊びを大人だけで体験する「大人だって遊びたい」を実施し、9名の参加があった。子ども未来応援枠事業として開催した「ゆうびんやさんになってみよう」「読んでみてはくわのわたしの好きな本」は、昨今の子どもの手紙離れ、読書離れが伝わる中、子どもたちに郵便や手紙、読書（本）の面白さを伝えていく内容により、ゆうびんやさんが16名、読んでみて！は6名の参加者があった。 昨年度開催した「K-POPを踊ってみよう」のステップアップ事業として、「スリラーを踊ってみよう」に小学1年生から70歳代の方まで23名が受講し、連続5回開催により、ダンスを通じた地域の方々の世代間交流に繋げることができた。 事業の改善点として、昨年度は事業計画で上げた事業が遂行出来ずに未達に終わってしまったため、計画段階から内容を精査し、完全な中止事業はA型5件、C型6件まで減少することが出来た。 また、ミニコミ紙の誤植に関しては、作成担当を変更して、コンソーシアム（共同事業体）全体で編集校正をすることにより、誤植防止に努めた。			
		【改善すべき点・課題等】スポーツ系事業を中心に、実際に事業が始まったものの、見込みの参加者が集客出来ず、企画変更や別講座に集約した講座も散見されるため、さらに計画時の精度を上げていきたい。				
		区 記入欄	【特記事項】項目1について、昨年度ミニコミ紙で曜日を間違える誤植が発生したが、チェック体制を強化し、チェックシートも活用したことにより誤植は発生していない。改善されていると判断する。項目2について、大人向けのワークショップを開催し、7割程度の初参加者を集めた点を評価し、水準点に2点加点する。なお、令和5年度は区へ提出した事業計画の中で実施ができなかった割合が高く減点となったが、企画の仕方を見直すなど計画時の精査および代替案への変更を適切に行い、概ね計画どおり実施できているため改善されたと判断する。引き続き適切な企画調整に努めてほしい。項目3について、子ども向けに身近な職業である郵便屋のお仕事体験を開催し、キャンセル待ちが発生するほどの集客があった。参加者の満足度も高いため、大いに評価し水準点に2点加点する。項目4について、連続講座の最終回を発表会に設定し、ステップアップの工夫を凝らした。また、誰もが馴染みのある曲をダンスの曲目としたことで幅広い年代が参加し、ダンスを通じた多世代交流となっている点も評価し、水準点に2点加点する。			
		評価 委員 記入欄	【評価すべき点】独自性の高いプログラムの実施など、各種事業を積極的に企画実行していることは評価できる。世代間交流の場を提供している点も評価する。なお、項目1について、前年度減点項目であった「広報物の誤植」についてはチェック体制の強化により改善したと判断する。また、項目2について、同じく前年度減点項目であった「事業計画の未達」についても、計画の精査や代替案の企画により、改善したと判断する。 【改善すべき点】それぞれの事業参加者は必ずしも多くない。広報活動が必ずしも効果的な成果に結びついていないといった課題は残っている。 【その他注意点】企画決定、代替案の併行検討、実施細則の早期着手など、今後も注意しながら実施されたい。			

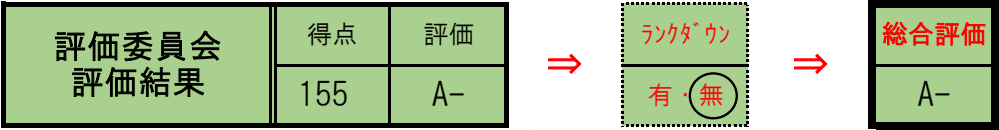
B 学習支援の取り組み	施設・地域特性に配慮し、適切な学習支援を行っているか		評価点		
			指定管理者	担当課	評価委員
	1	生涯学習コーディネート、サークルや個人利用者への支援の実施・成果 ◆学習相談、支援事業の実施、発表の場の提供・拡充 など	5.0	5.0	14.9 (満点15点)
	2	区内施設、団体との連携 ◆地域団体、区内施設との連携 など	5.0	5.0	
	3	地域特性の配慮、人材の活用 ◆区内人材活用、地域資源の発掘、ボランティア活用 など	5.0	5.0	
指定管理者記入欄	【アピールポイント】サークル支援として、会員の減少に苦慮している団体に対して会員の拡充を目的としたサークル支援講座を企画した。団体とセンターとの連携により講座内容を決め、初めての方も参加しやすい体験型講座を実施して、参加18名、内2名が新規会員になった。また、地域連携として、隣接商業施設「ベルクス足立東和店」へのアウトリーチ活動を通じて、働いている方々への講座内容の周知活動やセンターの学習内容を知らせるなどの広報活動によって、施設の認知度向上、リレーション構築を行なった。さらに、区内施設の佐野地域学習センターと連携し、お互いの人気講座を交換企画として他館で行なうことにより、利用者が講座を通じて、他の学習センターを知っていただく機会（新規利用層の拡大）を創出した。また、大谷田団地内にある「読む団地@大谷田」を会場に、区内の珈琲卸業者/ユーエスフーズ様の協力を得て、学習センターの出張講座を実施し、20名の参加者があった。				
	【改善すべき点・課題等】ボランティア人材の活用が、植栽ボランティアに限られてしまったため、今後は幅広く地域人材の発掘や募集によって、植栽以外の活動でのボランティア育成や協同でおこなえるボランティア事業の創出と仕組みづくりが必要である。				
区記入欄	【特記事項】項目1について、センターから会員減少傾向にある登録団体へ工夫を凝らした活動支援を行った結果、会員数増加につながった点を評価し、水準点に2点加点する。項目2について、複数の区内施設および団体と連携事業を企画し、多くの参加者に体験や学びを提供しており、水準点に2点加点する。項目3について、近隣に東綾瀬公園があるという特性を生かしてセミの観察講座を実施した。普段セミに馴染みがない子どもが生き物の生態を直接観て学べる機会を創出した点を評価し、水準点に2点加点する。				
評価委員記入欄	【評価すべき点】各種団体とも連携して積極的な活動を展開している。セミの観察講座など、地域特性（東綾瀬公園、読む団地）を生かした企画の実施が評価できる。 【改善すべき点】 【その他注意点】				
C 図書館事業の取り組み	仕様書や事業計画に沿った図書館事業が提供されているか		評価点		
			指定管理者	担当課	評価委員
	1	図書館の館内配置の工夫やPR活動の企画・実施・成果 ◆館内配置の工夫、レファレンスサービスの企画・実施・成果 など	5.0	4.0	9.1 (満点10点)
	2	読書推進活動の企画・実施・成果 ◆読書推進活動、連携事業の企画・実施・成果 など	5.0	5.0	
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】新規の利用者の獲得を目指し、あやセンターぐるぐるでの出張おはなし会、介助犬イベントや短歌講座などの新規イベントを実施した。また、夏休みの小学生向けの調べ学習に役立つような、昆虫講座や科学イベントなども実施した。			
		【改善すべき点・課題等】新規の利用者にアピールするためにホームページやSNSなどを活用し、図書館の利用者増につながったが、図書館未利用者層に向けてセンターとの連携がより一層必要と感じた。			
	区記入欄	【特記事項】「読む団地」や「あやセンターぐるぐる」でのアウトリーチ事業により、今まで図書館を利用しなかった新規の利用者の獲得に繋がった。また、介助犬のしごとを学ぶ介助犬訓練士による講演、介助犬との体験企画では、利用者へ新たな知識や体験を提供する場となり、関連する特集展示の貸出にも繋がった点が評価できる。			
	評価委員記入欄	【評価すべき点】新規イベント、出張イベントなどの活発な活動が行われている。シニア、子育て世代、児童向けといった様々な企画が提供されており、新規利用者の開拓がユニークである。ぜひ利用者の定着につながることを期待する。 【改善すべき点】改善点を認識しているため、問題無いと思われる。 【その他注意点】			

	適切な利用状況となっているか (環境の変化など外部要因を考慮)	評価点		
		指定管理者	担当課	評価委員
D 利用の 状況	1 学習施設・体育館等の利用状況が基準を達成している ◆利用率の基準値超 利用率基準値/学習施設34%、体育館88% ＜参考＞学習施設目標値 43.0%（前年度利用率+3%）	3.0	3.0	6.0 (満点10点)
	2 図書館の利用者数及び貸出冊数が基準を達成している ◆利用者数・貸出冊数の基準値超 利用人数(182,841人) ※基準値/178,922人 貸出冊数(279,014冊) ※基準値/281,486冊	3.0	3.0	
	指定管理者記入欄 【アピールポイント】夏休み子ども居場所づくり事業やフリースペースを活用した学習スペースの利用、LINEによる利用者とのコミュニケーションツールを設けたことにより、若年層への施設の周知が図られて、体育館を中心に問い合わせや利用が増加した。また、図書館の読書推進活動の様々な事業によって普段、センターを利用しない区民へのきっかけや誘導につながっている。			
	区記入欄 【改善すべき点・課題等】常時、定期的に学習室を利用していた文化系サークルにおいて、活動の高齢化や常態化または、後継者不足によって、活動を制限したり、解散を余儀なくされる例も散見されている。学習室は、2階以上の高所階にあり、しかも、構造上、外からサークル学習活動が見えにくい状態にあるため、活動の楽しさや作品製作の過程などを、多くの来館者に見ていただく機会を提供していく必要がある。			
	評価委員記入欄 【特記事項】項目1について、学習施設利用率は44.8%であり昨年度より上昇している。効果分析し、さらなる利用促進にむけて有効な対策を講じてほしい。また、情報発信により、特に体育館やフリースペースの利用について若年層の利用が増加傾向にある。今後は、まだ利用の少ない層を呼び込むための広報活動強化および見直しに努めてほしい。項目2について、貸出冊数の基準値には達さなかったため水準点より1点減点するが、貸出冊数前年比増加率の加点基準は達成したため、水準点に1点加点する。			
E 3分野 連携事業	3分野連携事業を計画通り実施しているか	評価点		
	指定管理者	担当課	評価委員	
	1 3分野連携事業が適正に実施されている ◆「関心喚起」「行動生起」「習慣化」の3種のプログラムの実施 ◆動機づけのための情報発信（プッシュ型発信等）をしているか など	5.0	5.0	5.0 (満点5点)
	指定管理者記入欄 【アピールポイント】3分野連携事業プログラムを年間79回実施。大人の参加者のうち、ターゲットである子育て層（20～40代）は92%にのぼった。朗読や手話体験など独自性の高いプログラムで関心を喚起し、続けやすい時間帯・人気のある講師による開催等で習慣化を進めたことで、対前年比161%と参加者が大幅に増加。働く人にも参加しやすいよう、土日祝日の昼間や平日夜間にも開催。パパ層にも主体的に関わりやすい題材を多くして男性の参加を促した（工作やボードゲーム）。			
	区記入欄 【改善すべき点・課題等】行動生起プログラムまで親子で熱心に参加してくれても、習慣化プログラムで大人だけとなると「子どもと一緒にないと参加できない（預ける場所がない）」という声が多くある。子育て中の親が抱える悩みを少しでも軽くして、大人が習慣的に学ぶ環境づくりを考えていく必要がある。			
	評価委員記入欄 【特記事項】映像やBGMで演出した朗読会、手話が出てくるおはなし会など独自性の高いプログラムを実施し、ほぼ定員の参加があった点を評価する。また、センター事業と図書館事業の時間をずらし同日開催したことでセンター、図書館どちらにも訪れる好循環を生み出している点も評価する。そのほか、図書館で実施する関心喚起プログラムを増加させ、全体参加者数を1.6倍に増加させた。以上の取り組みおよび成果を総合的に判断し、水準点に2点加点する。			
	評価委員記入欄 【評価すべき点】独自性の高いプログラムの実施は、参加者数増加に大いに貢献した。自己分析を行ったのち、他施設への共有も行ってほしい。 【改善すべき点】 【その他注意点】			

5カ年計画どおりに事業を実施し、計画通りの成果があったか （評価点×3）		評価点×3			
		指定管理者	担当課	評価委員	
F 主要事業の企画・実施・成果	1	主要事業の実施 ◆アプローチ方法が効果的であるか			23. 7
	2	主要事業の成果 ◆当該年度の達成目標を達成しているか			
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】東和カレッジにおいては、テーマ選定（課題設定）に苦慮しているが、企画段階から区民の方と協議を重ねてテーマを決め、地域の課題を共有することができた。4回の講座を通して受講者同士（区民）の交流と学習センターへの親近感の醸成や存在感（Value）を伝えることが出来た。東和フェスにおいては、日頃の講座アンケートでの関心・興味が高い「ダンス」を取り入れた。「音楽・ダンス」をテーマに、普段学習センターの利用が少ない大学生・高校生を中心に6団体と連携して事業を開催した。108名の参加があり、単にイベントを楽しむだけでなく、講座のステップアップ企画、図書館との連携、学生ボランティア活用など、広く地域と学生をつなぐ内容となった。			
	区記入欄	【特記事項】主要事業は「東和カレッジ」と「東和フェス」の2つを軸としているが、東和カレッジでは、令和5年度から発展し地域課題を考え向き合うといったより一層深く学習する講座を実施した。テーマとした「地域福祉」に関心を持たせる周知活動の難しさがあったように思うが「地域を知り地域の課題を地域の人たちと考える機会の創出」は達成できたと考える。東和フェスは、連携先および開催規模を拡大し、参加者数が増加した。来年度は、東和カレッジと東和フェスの連動など、さらなる広がりを目指す。			
	評価委員記入欄	【評価すべき点】各種事業が実施できている。区民と協議を重ねてテーマを決め、地域課題を共有できた点を評価する。 【改善すべき点】東和フェスでの大学生との連携について、区内大学へのアプローチ方法を工夫し、連携の実現を目指してほしい。また、連携後の発展について着想があるとよい。 【その他注意点】必ずしも利用者の増加にはつながっていない。東和カレッジの内容に関して、振り返りにあるように課題が難しかったと思われる。			
G 利用者の満足度（評価点はアンケート調査による）	利用者の満足を得られているか（評価点×2）		評価点×2		
			指定管理者	担当課	評価委員
	1	運営満足度 ◆職員の接客態度、説明や事務処理の的確さ		4. 2 (×2)	32. 8
	2	施設維持満足度 ◆施設の清潔さ、使いやすさ、館内表示 など		4. 6 (×2)	
	3	事業満足度 ◆事業内容の充実、ミニコミ紙 など		4. 0 (×2)	
	4	利用効果 ◆センターでの活動効果、意欲の向上 など		3. 6 (×2)	
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】不満、やや不満の回答について減少しており、職員の対応については、年々改善が見られている。 【改善すべき点・課題等】昨年度に比べ「満足」の割合が減少してしまっている。例として利用者の多い、体育館、トレーニングルームの利用者からの満足度が低い傾向にあるため、内容を精査して次年度改善出来るよう努力する必要がある。			
区記入欄	【特記事項】感謝の声も届いている一方で、全体的に「満足」の割合が減少している。また、苦情は少ないが要望の声が多い。要望に対しては、センターとして検討し対応策を講じたものも一部ある（最寄りバス停の案内図・時刻表の掲示など）。利用者層の変化が数値に影響している可能性はあるが、利用者の意見や要望に向き合い改善していくことで、満足度向上に努めてほしい。				
評価委員記入欄	【評価すべき点】利用効果を除き、前年度と同等の評価を維持している。 【改善すべき点】各種の要望が増えている。 【その他注意点】参加者数の増加が要望の増加にも反映されていると考えられる。今後の発展に向かう準備として前向きに捉えてほしい。				
合計点			109. 0 (満点130点)	132. 8 (満点=170点)	155. 5 (満点=200点)

特記事項 (評価委員会による総合評価を記入)	学習施設、体育館、図書館の3施設とも、少しずつではあるが利用者数を伸ばしていることは大変評価できる。事業において、独自性の高いプログラムの実施など、積極的な活動が行われていることも評価できる。一方で、主要事業の広報活動などに課題があると事業者も記述しているように、必ずしも効果的な活動とはなっていない点もみられる。出張イベントにおける参加者がセンターに足を運んでくれるような取り組みに期待したい。
---------------------------	--

【評価委員会評価結果】



※評価結果は評価委員会が行う。
※小数点以下は切り捨て、整数とする。

【指定管理者への改善要望】
1-Dにおける減点事項について、昨年度に続きマイナス収支であり、収支計画の再検討および改善策の実施を求める。
2-D項目2における減点事項について、図書館利用者数は増加しており、イベント等を通じた積極的な読書活動推進に取り組んでいるが、貸出冊数の増加にどうつなげていくかは今後に期待したい。

＜評価委員会評価基準＞

評点		評価基準						
満点	標準点	75%以上			～			54%以下
		A +	A	A -	B +	B	B -	C
200点	120点	180点以上	167点以上 179点以下	150点以上 166点以下	134点以上 149点以下	119点以上 133点以下	109点以上 118点以下	108点以下
得点率		90%以上	～	83%以下	67%以上	～	59%以下	54%以下

※「標準点」…評価項目が全て「3」（水準クリア）の評価を受けた場合の得点。
※「A」は満点の0.75倍以上（小数点以下切上）、「C」は満点の0.54倍以下（小数点以下切捨）とする。